

変形労働制ではなく、せんせいふやそう!

止めよう! 変形労働制 22

「止めよう! 変形労働制」ニュース No.22

全北海道教職員組合

2019. 11. 21

教員を親に持つ中学生、高校生の声②

高校生が、弁論の全国大会で訴えたこと 入学式も参観日も親は不在…伝えたい思い



●父は教員、母は保育士、弁論大会で訴えた高校生の思い

今年の8月に行われた全国高校総合文化祭弁論部門で、父は教員、母は保育士という高校生が、小学生のころに感じていたさみしい気持ちを振り返り、長時間労働の両親のもとで我慢を強いられる子どもの声を聴いてほしいと訴えました。(10/23 高校生新聞)

●「なんで私のお母さんなのに、他の子のために我慢しなければいけないの?」

家族の団らんは朝ご飯の時だけ。週末は、部活指導や土曜保育が当たり前。そんな日々を過ごすうちに「両親は私よりも仕事の方が大切なのは」と感じるように。小学校の入学式は、父は職場の入学式、母も入園式がありました。参観日も、体調が悪くて早退するときも、両親ではなく祖母が来ていました。

ある日の夕方、学校でうれしいことがあり、一刻も早く伝えたくて、母の職場に電話。しかし、祖母から「心配かけちゃいけない」と叱られました。「なんで?なんで私のお母さんなのに、他の子のために私が我慢しなければいけないの?」と感じていました。

●子どもの権利が守られないのは、「子どもの声が届いていないから」

17歳の「私」が知ったことは、母が何度も私のために仕事を辞めようかと悩んでいたことでした。親も苦しんでいたことに気付き、また、両親の仕事についての認識も深まって、「私は両親の仕事の犠牲者ではなかった」と感じるようになっていきます。

しかし、日本は国連から、子どもの権利を十分に守る政策ができていないと勧告を受けています。それは、「子どもの声が届いていないから」と語っています。そして、「私は、親と一緒にご飯を食べたい。親と一緒に学校であったうれしいことを話したい。子どもが守られる社会は、がんばる親も守られる社会です。」と訴えます。



●「1年単位の変形労働時間制」導入で、ますます困難な状況に

「1年単位の変形労働時間制」が導入されれば、「繁忙期」の勤務時間が延長され、夜6時、7時の退勤となる場合もあります。育児をする教員も、教員の家庭の子どもたちも、ますます困難な状況に追い込まれます。「子どもの声」に心を寄せるならば、「1年単位の変形労働時間制」導入ではなく、人を増やし、業務を減らすこと以外にありません。